

平成30年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 旭川地区
- 2 事例報告学校名 : 旭川市立台場小学校
- 3 報告者 : 校長 鈴木 洋 伸
- 4 キーワード : 地域の教育資源を生かした活動の推進



1 はじめに

大正9年に開校し、98年目を迎えた本校は、旭川市の西域、国道12号線沿いの小盆地に位置し、周囲を丘陵地や山地に囲まれ、石狩川や伊野川が流れる自然環境に恵まれた地域にあります。当地区は「台場小鳥の村」として知られ、地区の住民全てが「小鳥の村」の村民となっています。「小鳥の村」は、昭和34年に野鳥愛護活動を目的として開村され、それ以来59年間、地域と学校が一体となって、野鳥や森林の保護に努めてきました。

本校は児童数44名、学級数は一部複式の7学級（うち3つは特別支援学級）となっています。北海道愛鳥モデル校の指定を受け、「台場小鳥の村」を核とした野鳥愛護活動はもちろん、校庭横に広がる約1haの「小鳥の森」を活用して、理科や生活科、総合的な学習の時間において観察や調べ学習など体験的な学習の充実を図っています。

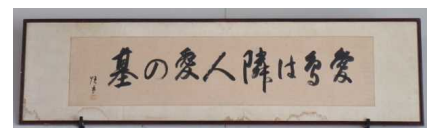
また、本校では、校区内にある児童養護施設（旭川育児院）から通学する児童が全校児童の3分の1を占めるため、施設との連携した取組が重要となります。さらに、老人ホームなどの施設も間近にあり、子どもたちの心を育てるための連携が図られています。

本稿では、豊かな自然環境を生かした、地域とともに進める体験的な学習の実践を紹介します。

2 地域の教育資源を生かした特色ある活動

(1) 活動を支える環境整備（愛鳥活動の基本理念を生かす教育の推進）

本校における愛鳥活動は、短期のイベント的なものではなく、学校教育の目標と合致した活動であり、それが長きにわたって継承されてきた所以でもあります。「小鳥の村」の基本理念は、日本野鳥の会の創始者である中西悟堂氏の「愛鳥は隣人愛の基」であり、子どもたちの中に、小さく弱い存在に対する思いやりの心を育てることにつながると考えています。



①常設物の工夫による愛鳥精神の醸成

学校には野鳥の姿が溢れています。通学路の坂を上り始めると小鳥のレリーフが添えられた案内板が目に入り込んできます。校門・児童玄関、そして教室につながる廊下、教室表示までも野鳥の姿が飾られています。教室表示は、複式学級の変化に合わせて、「小鳥の村」や近隣にある施設「旭川春光会」の協力を得て作り直しています。



②体験的な学習の見える化

2階理科室前には、「小鳥の森」で見つけた生き物たちの写真と説明文が所狭しと掲示されています。貴重な体験が見える化することで、体験の記録化や共有・蓄積が図られています。



③「小鳥の森」の笹刈り

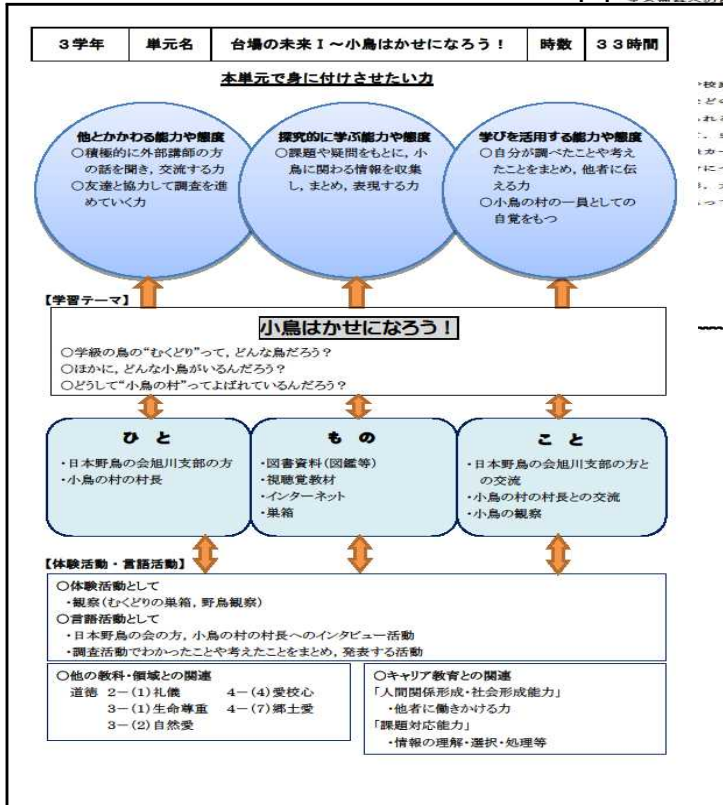
毎年、野鳥の住みやすい環境づくりのため、「小鳥の村」の会員（つまりは地域の方々）と学校が協力して、間伐や笹刈りを行っています。森を守る大人の姿を見る子どもたちの心に地域愛や連帯感を育み、大人になったときに野鳥愛護活動を受け継いでいくことを期待しています。



(2) 教育課程に位置付けた活動（「小鳥の森」の活用による体験的な学習の充実）

①理科・生活科

指導計画に「小鳥の森」の特徴を明記することで、時季をとらえた活用が図られています。教員の入替わりにも対応できるものとなっています。



②総合的な学習の時間

3・4年「台場の未来 I ～小鳥はかせになろう」、5・6年「台場の未来 II ～台場の自然を守り隊」、共通「愛鳥ポスターをかこう」という単元を設定しています。



愛鳥ポスターは、毎年、作品展で数名が入賞し子どもたちの励みとなっています。また、地域の方の指導の下、巣箱づくりを行い、野鳥の繁殖時期に合わせて設置・観察をしています。

(3) 楽しむ活動の促進

自然とのふれあい、地域の人たちとのふれあいは、子どもたちにとって楽しい体験であることが重要です。何かの目的のためにふれあうことも大切ですが、ふれあうこと自体が楽しくあることが、体験をより豊かなものにしていくと考えています。

①NaTsuMuSi GO

7～9月の中休みや昼休みには、虫取り網と虫かごを持った子どもたちがグラウンドを賑わせます。希少な蝶も生息し、ポイントが決められています。始業前にはリリースしています。



②小鳥の村音頭

運動会では、「小鳥の村」の法被を着て、保護者・地域の方と「小鳥の村音頭」を笑顔いっぱい踊ります。平成18年から続けられている、「小鳥の村」ならではのふれあい活動となっています。



3 おわりに

新しい時代に必要な資質・能力の育成に向けて、「小鳥の村」との連携を新しい視点で発展・充実させ、地域の教育資源を「社会に開かれた教育課程」に組み込むことで、子どもたちの視野を広げ、心を育てる活動を今後も推進していきたいと考えています。